

県立図書館の子どもの読書活動推進に係る提言

提言1 県立図書館の機能・役割について

県立図書館は、市町村立図書館の整備や活動状況等を踏まえ、県立図書館なりの機能・役割を果たす必要がある。

- 他の都道府県でも県立久喜図書館と同様に児童のためのスペースを設けているところが多いが、住民にとっては市町村に図書館があればそちらのほうがアクセスしやすいと思われる。利用者の便を考えたとしても県立図書館としてのミッションは他に求めるべきではないか。
- 県立図書館と市町村立図書館とを比較した場合の県立図書館のミッションとは何か、について再認識したり常に問いかける必要がある。
- ボランティアを育てたり、講座を開催することも大事だが、市町村でもそのような事業は行っているのだから、違うものを打ち出していないと県立らしさはアピールできない。
- ホームページで見ると埼玉県は朝の読書の実施校数が多いので、この分野で読書に触れる機会を増やすなど、県立図書館として後方支援できないか。

提言2 読書への誘いについて

子どもが読書に興味を持つように、子どもに直接働きかけるような企画を他の分野の事業とも連携して考える必要がある。

- お母さんと子どもが集まるようなイベントを、1年に1回でもいいからやってほしい。
- 今の社会は活字から遠ざかろうという傾向があるので、それは認めた上でどうしたらいいかを考える必要がある。以前、音楽に関係した絵本を出版したが、コンサートを開いた時にその絵本を展示したところ、様々な方に手にとっていただくことができた。このような芸術を組み合わせたイベントも考えられるのではないか。
- 教育局では児童生徒に対する芸術文化推進の活動として、課外授業的なメニューをバンクにして、小中学校に利用していただくことを進めている。その中に、ボランティアの方にも参加していただき、子どもたちに読書の楽しさを伝えるようメニューを加えられないか。
- 芸術文化団体でも子どもを対象に講習会を開催している。そのときに本を題材に用いるなどして横の交流ができると、子どもたちにとって読書が膨らむのではないか。
- 県立久喜図書館の子ども図書室を見せていただいたが、どの年齢層の子どもたちに向

けて活動しているのかが見えにくかった。本を推薦し合うような子どもたちが参加する企画を考える必要がある。あるところでは、1枚のハガキに子どもたちが自分で選んだ本を取り上げて身近な人に紹介する「読書郵便コンテスト」というのを実施している。感想文だと難しいが、このような企画ならば図書館でもできるのではないか。

提言3 ボランティアの活用について

地域文庫活動を行っている方をボランティアに取り込むことにより、子どもの読書活動を広げる継続的な活動が期待できる。

また、高校生や大学生がボランティアとして参加することにより、人間形成に資することもできる。

このため、県立図書館が中心となってボランティアの育成・支援を進める必要がある。そして、育成されたボランティアが活躍できる場の整備のため、県立と市町村立図書館とが連携して進めることに知恵を絞って欲しい。

◎ 育成・支援について

- 小学校では朝の読書の時間にボランティアが活動していることが多いが、保護者がボランティアとしてやっているのではなかなか勉強の時間がとれない。ベテランの人もいるが経験だけでは不安な面もある。ボランティアであってもそれなりの覚悟と勉強が必要な分野なので、県立図書館が中心になってボランティアの育成をやっていただきたい。
- 大学生世代もボランティアの時代で多くの学生が参加するようになり、大学も単位を与えている。高校生、大学生が子どもに本を読んであげることで心も温くなる。そういう機会を作ってもらいたい。予算がないということだが自主的な勉強会を支援していく施策も必要ではないか。

◎ 参画について

- 1960年代にも親子読書活動などの取り組みが巻き起こり、その時に生まれた地域文庫などが今も残って活動していたり、読みきかせなどの活動をしている方もかなりいる。そういった方を計画の体系の中に組み入れていくことで子どもの読書を支援する活動を長く続けていくことができるのではないか。
- 子ども読書支援センターが養成したボランティアに、市町村の図書館が養成したボランティアを仲間に加え、市町村立図書館にも拠点を置きながら、必要に応じて派遣できる仕組みを作ってはどうか。機動的に支援センターが機能して、出前サービスのような形で県内各地に児童サービスが普及できる体勢づくりをしていただきたい。

県立図書館の役割からはみ出すようなら、県の他の機関とタイアップするなどして、全県下の学校や公民館などの施設で、児童サービスがいろいろな場面で読みきかせ、ス

トリーテリングなど、あらゆる事柄ができるような旗振りは支援センターが行っていくべきではないか。

提言 4 広報の充実について

県民、学校等に向けて、県立図書館の活動を積極的に広報する必要がある。

- 学校の図書館活動に刺激を与えるような企画と、県民へのアピール、宣伝が必要である。
すばらしい本がたくさん書庫にあるのに、一般の方がそれを知らないのがとても残念である。
- 栃木県立図書館のホームページでは、ボランティアグループが連絡先まで含めて77件掲載されている。埼玉県の推進計画ではグループについて500という数字が出ているが詳細はわからない。この点でもPR不足と思われる。
- 県立図書館で図書館関係者に配布しているリーフレットを見たことがあるが、これを一般にも公開すれば県立図書館の動きが県民にもよくわかるのではないか。
- 高校では看護や福祉など様々な進路に進む生徒がおり、またボランティアのリーダーとして活動している生徒もいる。しかし、生徒には本（読書）を通して将来の職業や現在のボランティア活動について考えることが少ないし、考える機会もないと言っている。学校にも読書に関心を持っている子どもたちがいるので、読書の意味を深く考えさせる機会の設置の必要性を教員を含めて学校に向けてもPRしていただきたい。
- 生徒にとって図書館は固いイメージがある。広報も大人の視点からではなく、対象が生徒であることを考慮した親しみやすい表現が必要なのではないか。

提言 5 図書館資料の活用及び施設の改善について

膨大な図書館資料が活用されるよう検討するとともに、県民がそれらを直接見られるよう施設の改善を図る必要がある。

- 書庫に本がこれだけあるのにどうして外へ出て行かないのか疑問である。貸出をしてボランティアの方などが指導をするような時間があるとよい。本は目の前にあるのが一番だと思うので、この点について具体的な対応を考えられないか。
- 周りの人から、県立図書館は本を出して見せてほしいという声を聞くことが多いので、有能な建築家をお願いして低予算ですばらしい児童書のコーナーができないか。
- 駅から離れている久喜図書館が児童サービスの中心となるためには、大きな目玉とし

て布絵本に重点を置けば、そこに県立図書館の大きな意義も見いだせる。布絵本の貸出は養護学校に限られているようだが、普通学級にも貸出すようにして、県立図書館の目玉としてもらいたい。

提言6 埼玉県子ども読書活動推進計画について

埼玉県子ども読書活動推進計画は、その使命が明確であるとより意義あるものになる。

また、子どもの読書活動を考える場合は、年齢別に応じた方策を考える必要がある。

- 埼玉県子ども読書活動推進計画を見ると内容はしっかりしているが、埼玉にとってこの計画の使命が見えると更によくなる。いいことがたくさん書かれているが分かりにくい。表や箇条書きを用いてわかりやすくすることも大事である。
 - 小学校の教員の友人に話を聞くと、低学年には読み聞かせ、高学年はブックトークという読書形態が採られている。読書活動推進計画を考えるとき、子どもというと小さい子を対象としてしまいがちだが、実際は年齢別に応じた作戦を練ることが必要である。
- (参考) 平成18年3月末現在、県内では7市で子ども読書活動推進計画が策定されている。
(文部科学省調査)